

本人と家族の意向に沿った 多職種連携の推進について ～ポイントの設定～

令和5年10月26日
柏市地域医療推進課

検討の流れの再確認

本人と家族の意向に沿った多職種連携の推進

- テーマを実現していくためには、テーマに対する**具体的な共通認識**が必要ではないか。
- 共通認識を図るために、**4つの場面毎のポイント**を設定したい。
- ポイントを設定するために「**テーマに対する現状や課題**」を**3方向から検討**。

3方向からの検討

質的側面

エピソード

量的側面

評価指標
・将来推計
・死亡小票

アウトカム

満足度調査結果
・市民
・従事者

満足度調査速報

ポイントの設定

入退院
支援

日常の
療養支援

急変時
の対応

看取り

方向性の更新

3方向からの検討と
第2回で設定した
ポイントを踏まえ
R3第3回の方向性を
必要に応じて更新

R4年度第2回

R4年度第3回

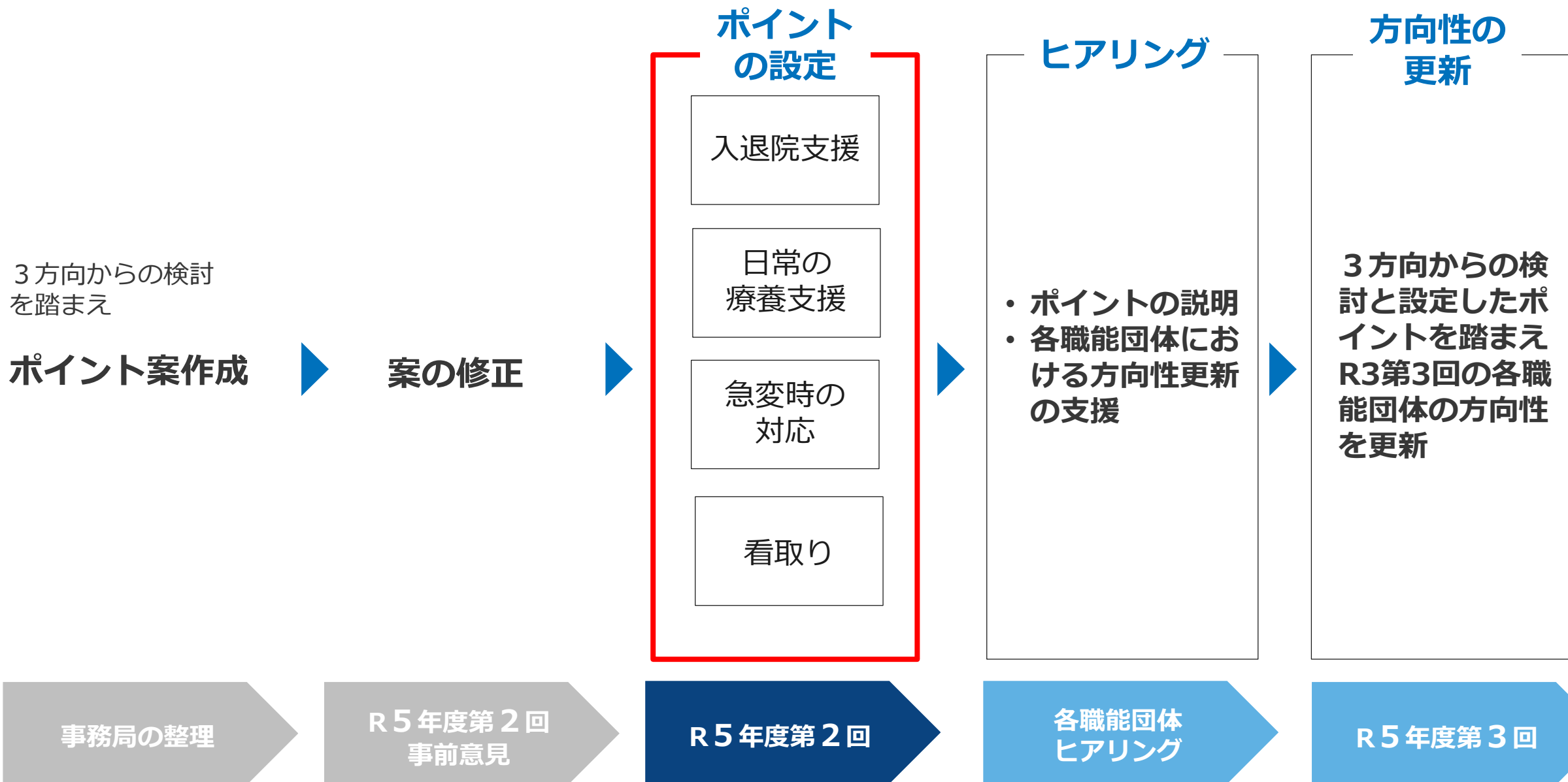
R5年度第1回

R5年度第2回

R5年度第3回

今回はココです

今後の流れ – 第1回終了後から第3回まで –



本人と家族の意向に沿った多職種連携の推進の実現に向けて

1. 質的側面からの検討（令和4年度第2回協議会）

- (1) 本人の意向に沿った支援をする上で**大切にしていること**
- (2) 本人の意向に沿った支援を**多職種で実現していく上での難しさ**
- (3) 自分や自分の家族が医療・介護を受けるとしたら、**支援者に大切にしてほしいこと**

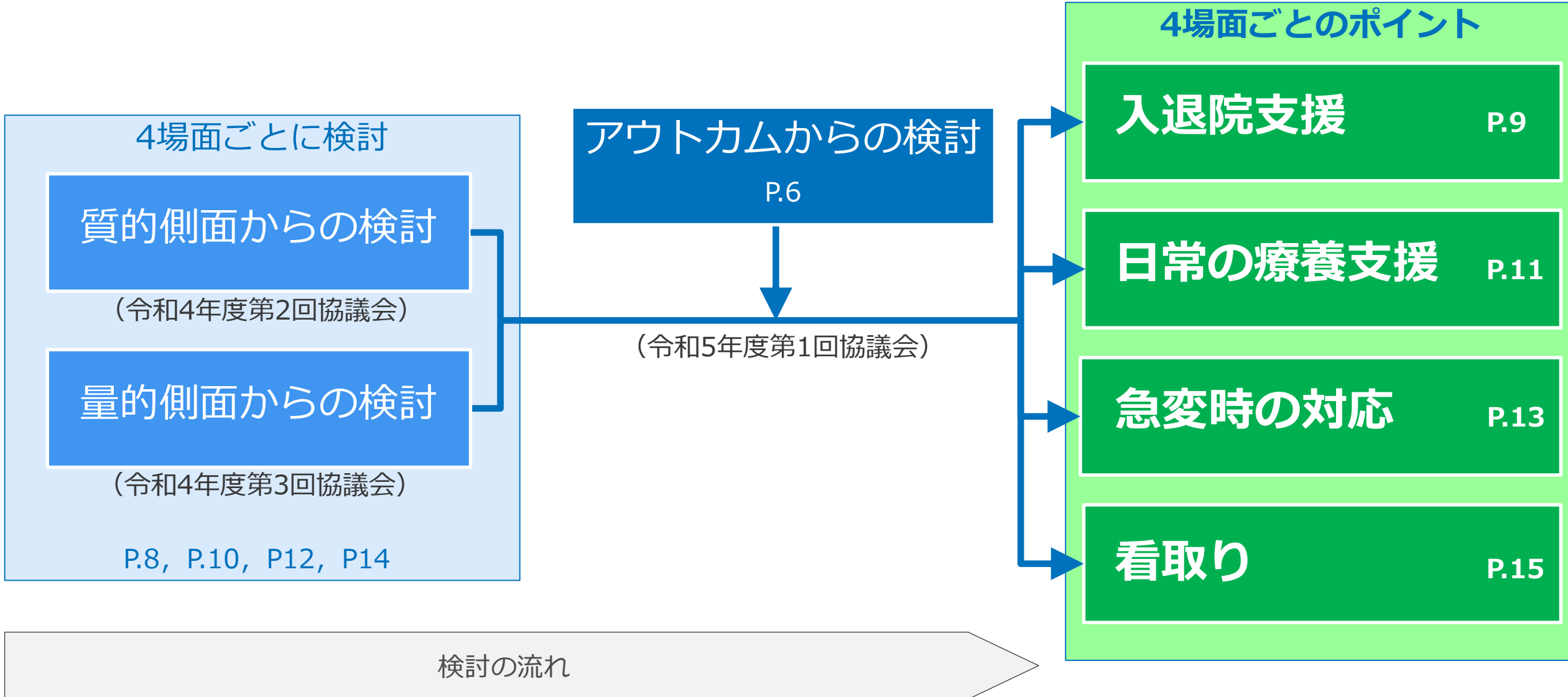
2. 量的側面からの検討（令和4年度第3回協議会）

- (1) 2040年頃に自分や自分の家族が在宅医療・介護サービスを利用するとしたら、**心配・不安なこと**
- (2) 今後、より多くのサービス提供が求められる中で、本人と家族の意向に沿った支援を行うために
同職種間・多職種間の連携でできること

3. アウトカム（本人・家族・従事者満足度調査）からの検討（令和5年度第1回協議会）

- (1) 本人や家族の**サービス満足度**
- (2) 家族による**本人の意向の確認**の有無と、**本人と家族の意向の一致状況**
- (3) 本人の**意向の伝達状況**，従事者による**意向の確認状況**

ポイント設定のための検討 —3方向からの検討—



アウトカム（本人・家族・従事者満足度調査）からの検討結果

※意見の区分

できていること

課題・必要なこと

	サービスを受ける側		関係性等 ←→	支援者側	
	現状	課題・負担		取り組んでいること	課題・必要な取り組み
本人の意向	<p>意向確認に関する意識の高まり</p>	<p>近い人と日頃から話し合う</p>	<p>意向が支援者に伝わっていない</p>	<p>支援の場や会話を通じた様々な形での意向確認</p>	<p>日頃からの確認</p>
家族の意向	<p>サービスへの満足感</p>	<p>確認しても伝えられない本人・家族</p> <p>意向確認の必要性に関する認識不足</p> <p>家族の孤立感</p>	<p>本人・家族と支援者の関係⇒聞いてもらえないと言えない</p>	<p>常に意向確認に意識した関わり方</p> <p>チーム全員が本人・家族の変化をキャッチできる姿勢</p>	<p>本人本位での関わり、支援</p> <p>介護職も積極的に関与</p> <p>困難な意向も一旦受け止める</p> <p>コミュニケーションスキル</p>
	本人・家族との情報共有	<p>支援の必要性に関する理解不足</p> <p>精神的負担 経済的負担</p>	<p>本人・家族の伝えたい意向と支援者の確認したい意向のズレ</p>		<p>本人・家族への十分な説明</p> <p>不安・負担軽減のための情報提供</p>
関係機関との情報共有	<p>支援者への信頼感</p>			<p>チームでの情報共有</p> <p>カシワニネットの活用</p>	<p>チームでの情報共有</p>
体制の整備				<p>職域を超えたチーム力の形成</p>	

4つの場面ごとのポイント設定について

アウトカムからの検討結果から見えた現状や今後の課題

- 質的側面・量的側面からの検討結果と
課題や取り組みの方向性は共通していることを確認



これまでの協議内容を踏まえて
4つの場面ごとにポイントを設定

【目指す姿】 入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。

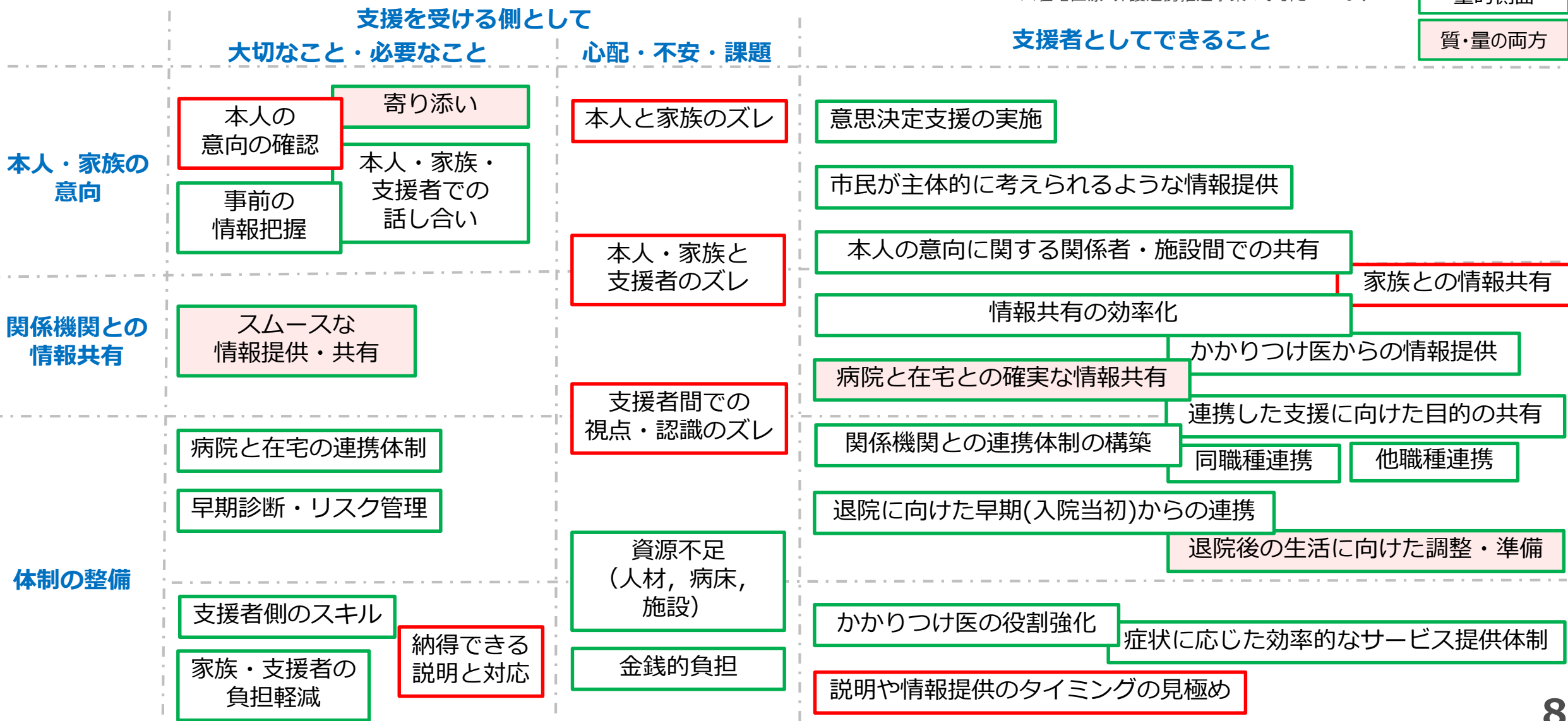
※在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer3より

※意見の区分

質的側面

量的側面

質・量の両方



「入退院支援」におけるポイント（案）

- 本人・家族・支援者で話し合い，本人の意向に沿った意思決定ができるように支援する。
- 本人の意向について，本人・家族・支援者間でズレが生じないように，特に病院と在宅チームとの間で確実に，**かつスムーズ**に情報共有する。
- **情報共有は入退院時点のみならず，状況に応じて入院中や退院後にも行うとともに，入院前の状況や本人・家族の思い等についても共有する。**
- 同職種・多職種間，及び関係機関との連携体制を構築し，退院後の生活に向けて，早期からの連携・調整を図る。
- 本人・家族への説明や情報提供，及び状態に応じたサービス提供については，本人・家族が十分に納得や理解が得られるように心がける。

※赤字部分は事前意見を反映して追記・修正等した部分

【目指す姿】 医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた場所で生活ができるようにする。

※在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer3より

※意見の区分

- 質的側面
- 量的側面
- 質・量の両方

支援を受ける側として

大切なこと・必要なこと

心配・不安・課題

支援者としてできること

本人の意向

- 意向の確認と共有
 - 本人への理解, 尊厳
 - 寄り添い
- できるだけ自立した生活
 - 知識情報提供

- 本人が意向を表出できるようなアプローチ
 - 何度でも話題にする (特に看取り)
- 本人の望む生活に向けた支援
 - 日頃からの意向確認 (機会の設定)
 - 本人のできることを最大限生かした支援, アドバイス
- 市民に対する啓発活動

関係機関との情報共有

- 関係機関の連携体制
 - スムーズな支援

- 本人・家族と支援者のズレ
 - 本人・家族とのコミュニケーションや支援
 - 本人・家族との意向の共有
- 支援者間での視点・認識のズレ
 - 情報共有(カシワニネット)
 - 連携した支援に向けた目的の共有

体制の整備

- 相談窓口
 - 安心感
 - 介護者への理解・配慮

- 資源不足 (人材, 病床)
- 家族の負担
- 金銭的負担
- 関係機関との連携体制の構築
 - 多職種への支援
 - 資源の拡充
 - 病院と在宅の連携
- インフォーマルサービスの活用, 連携
- 十分なコミュニケーション, 信頼関係

「日常の療養支援」におけるポイント（案）

- 関わる全ての支援者が、本人にとって意向を表出できるようなアプローチを心がけ、日頃から意向確認を行うことで、本人のできることを生かした、望む生活の実現に向けて支援する。
- 日頃よりインフォーマルも含めたサービス等の情報提供をすることで、本人・家族が主体的に考え、選択できるよう支援する。
- 本人・家族・支援者間で認識のズレが生じないように、本人の意向や連携した支援に向けた目的等を共有する。
- 十分なコミュニケーションにより本人・家族との信頼関係を築く。
- 本人・家族が安心して療養生活を送れるように、関係機関との連携体制を構築するとともに、それを本人・家族とも共有する。

【目指す姿】 医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。

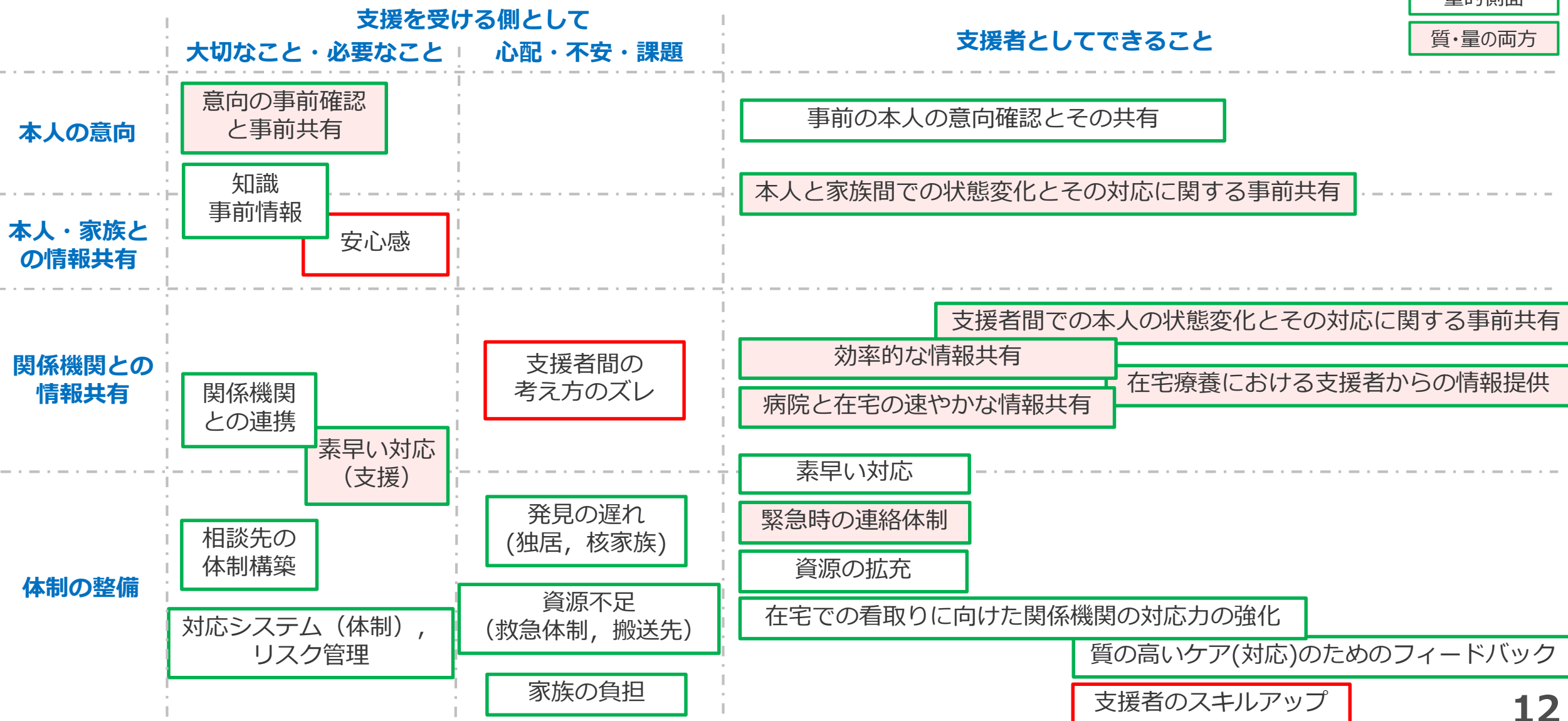
※在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer3より

※意見の区分

質的側面

量的側面

質・量の両方



「急変時の対応」におけるポイント（案）

- （本人の）状態変化における対応について、日頃から本人の意向を確認するとともに、それを家族や支援者間で事前共有する。
- 本人の意向や在宅療養における支援者からの情報等について、速やか、かつ効率的に関係者間で共有する。
- 急変時における支援・対応について、支援者側のスキルアップを図り、緊急時の支援体制を構築することで、本人の状態変化に合わせた速やかな対応を行う。

【目指す姿】地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人（意思が示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。

※意見の区分

- 質的側面
- 量的側面
- 質・量の両方

※在宅医療・介護連携推進事業の手引きVer3より

支援を受ける側として
大切なこと・必要なこと 心配・不安・課題

支援者としてできること

本人の意向

意向の確認
意思の尊重

本人への
理解, 尊厳

事前の
話し合い

市民がACPについて理解できるような声かけ, 関わり

本人・家族へのくり返しでの意向確認

関係機関との
情報共有

チーム内での
こまめな
情報共有

本人の望む最期の実現のための支援

支援方法の共有

体制の整備

看取り体制
の構築

資源不足
(在宅医, サービス)

情報共有(カシワニネット)

関係者間での本人の意向の共有

在宅での看取りに向けた体制・連携強化

スムーズな
支援

他職種(葬儀, 宗教関係含む)との連携

家族への
対応・支援

知識

納得感

家族の負担

家族への支援(グリーフケア含む)

家族の思い

本人と家族の
思い・対応の
ズレ

金銭的負担
(貯蓄必要)

十分な説明

介護者への配慮

「看取り」におけるポイント（案）

- 意向の確認は、本人への理解や尊厳の心を持ち、本人・家族にくり返し行う。
- 本人・家族の意向は、カシワニネット等のツールを活用しながら支援者間でこまめに情報共有し、本人の望む最期の実現に向けて支援する。
- 本人の意向に沿った看取りに向けて、多職種連携の体制を強化する。
- 看取り後を含め、本人だけでなく、家族の想いや納得感にも配慮した支援を心がける。
- 看取り後の支援者側による振り返り等の充実を図り、意思決定支援や本人・家族の意向に沿った看取り体制の構築・強化につなげる。

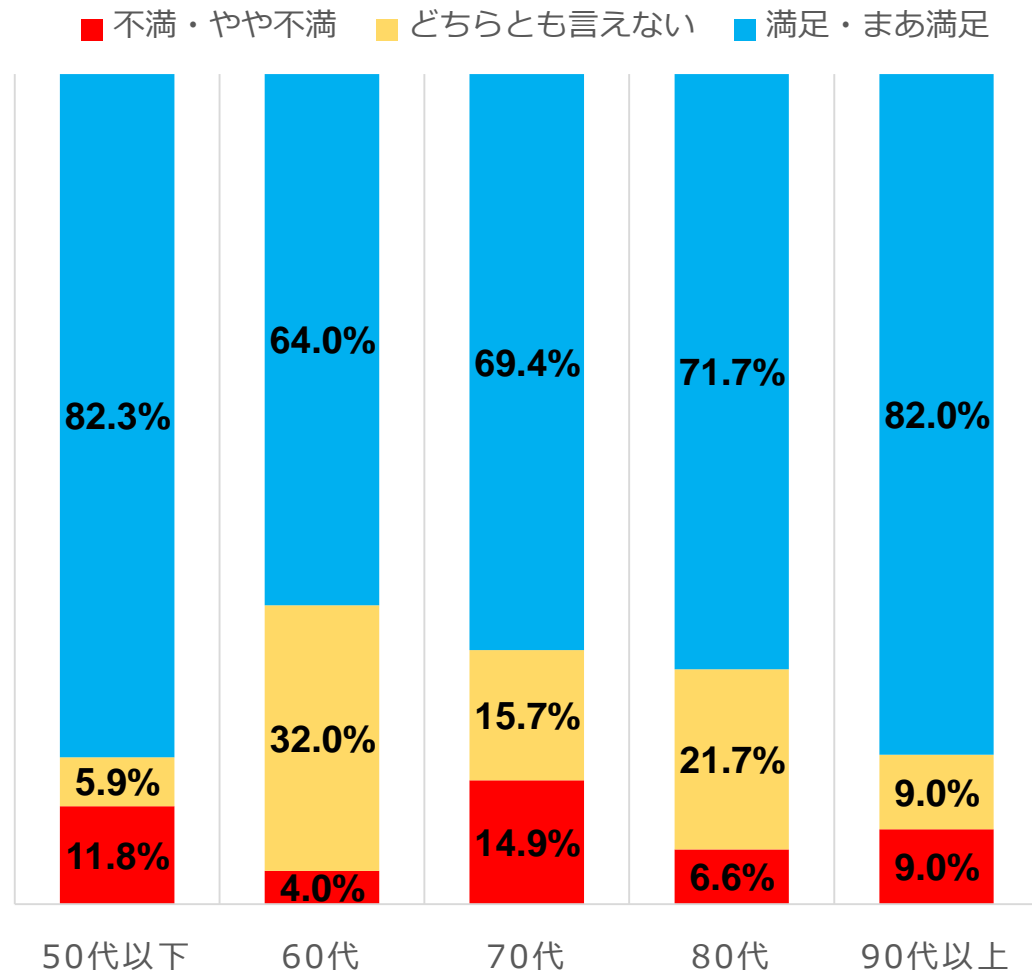
参考資料

～アウトカムからの検討 補足データ～

介護保険サービス利用者対象・満足度調査（在宅医療あり）

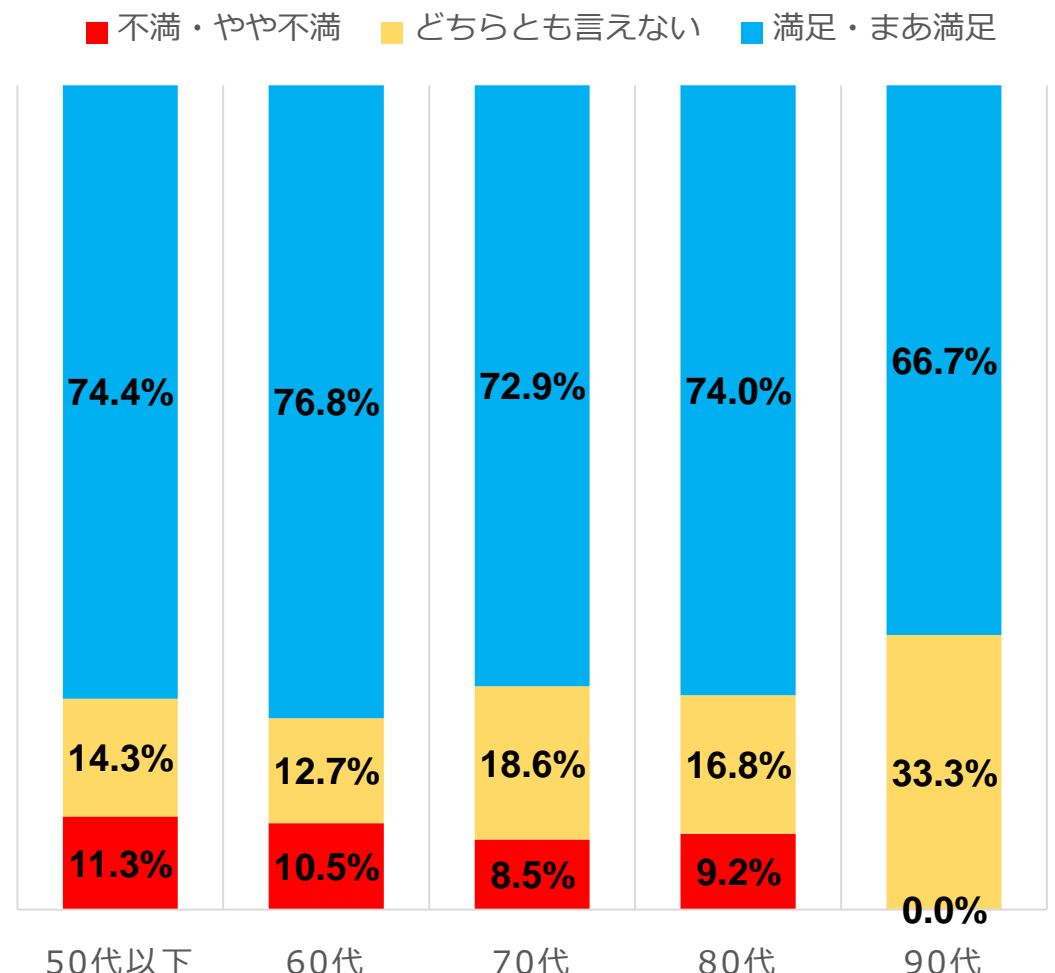
サービス満足度×年代別（本人）

n=582（624から無回答42を除く）



サービス満足度×年代別（家族）

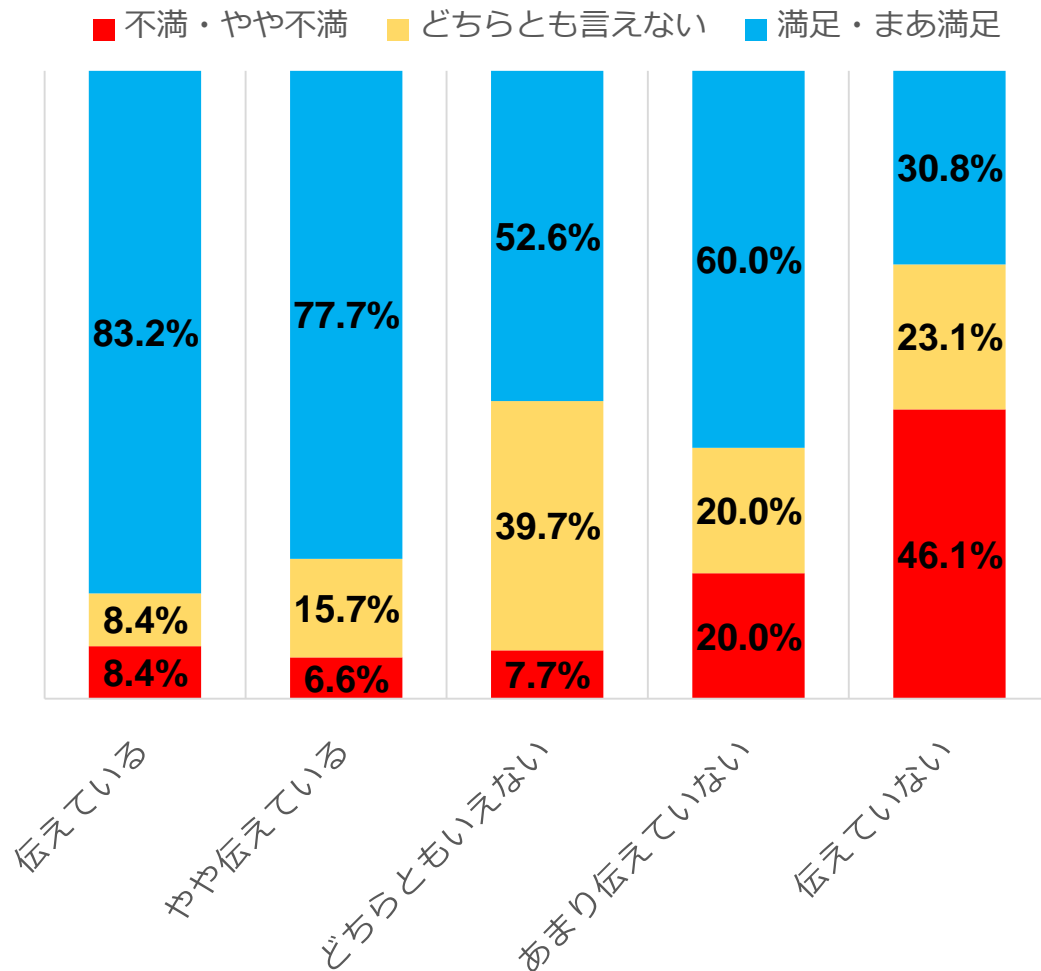
n=839（876から無回答37を除く）



介護保険サービス利用者対象・満足度調査（在宅医療あり）

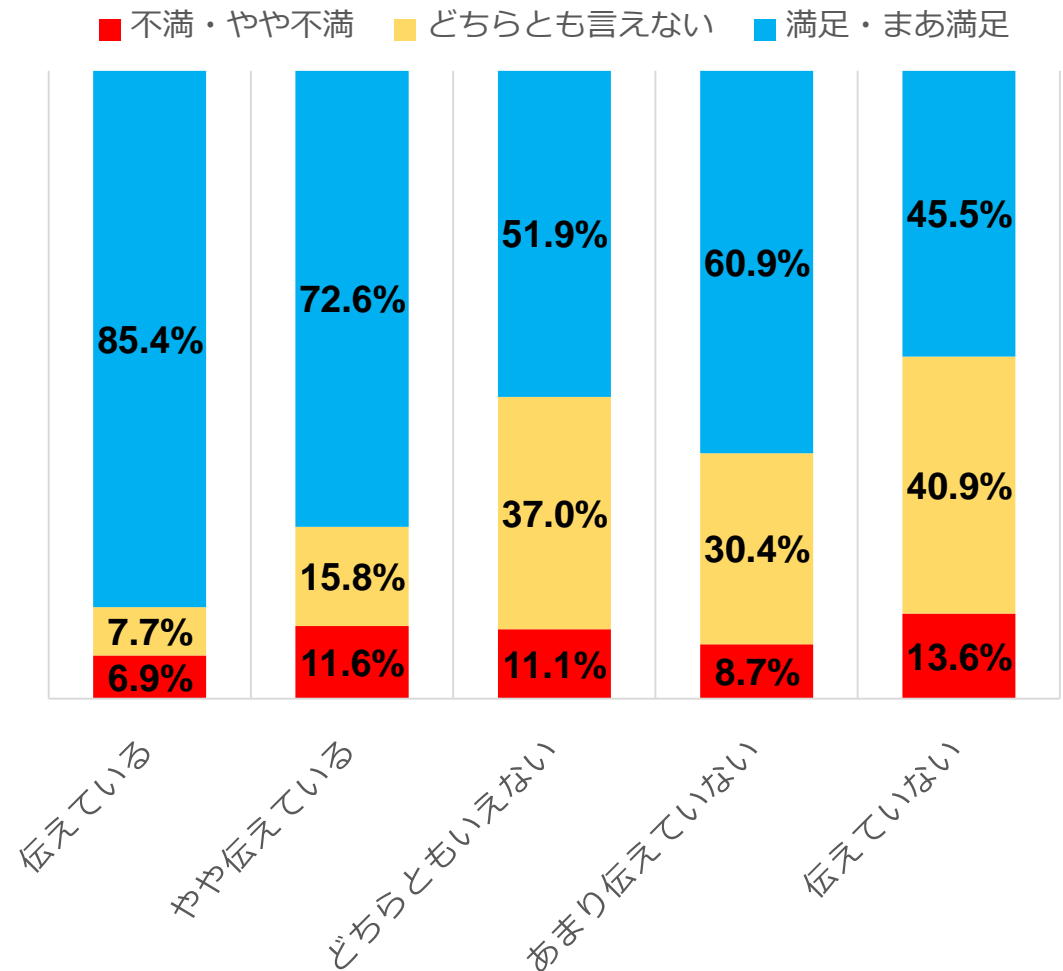
サービス満足度×意向伝達（本人）

n=554（624から無回答・無効70を除く）



サービス満足度×意向伝達（家族）

n=626（876から無回答・無効250を除く）

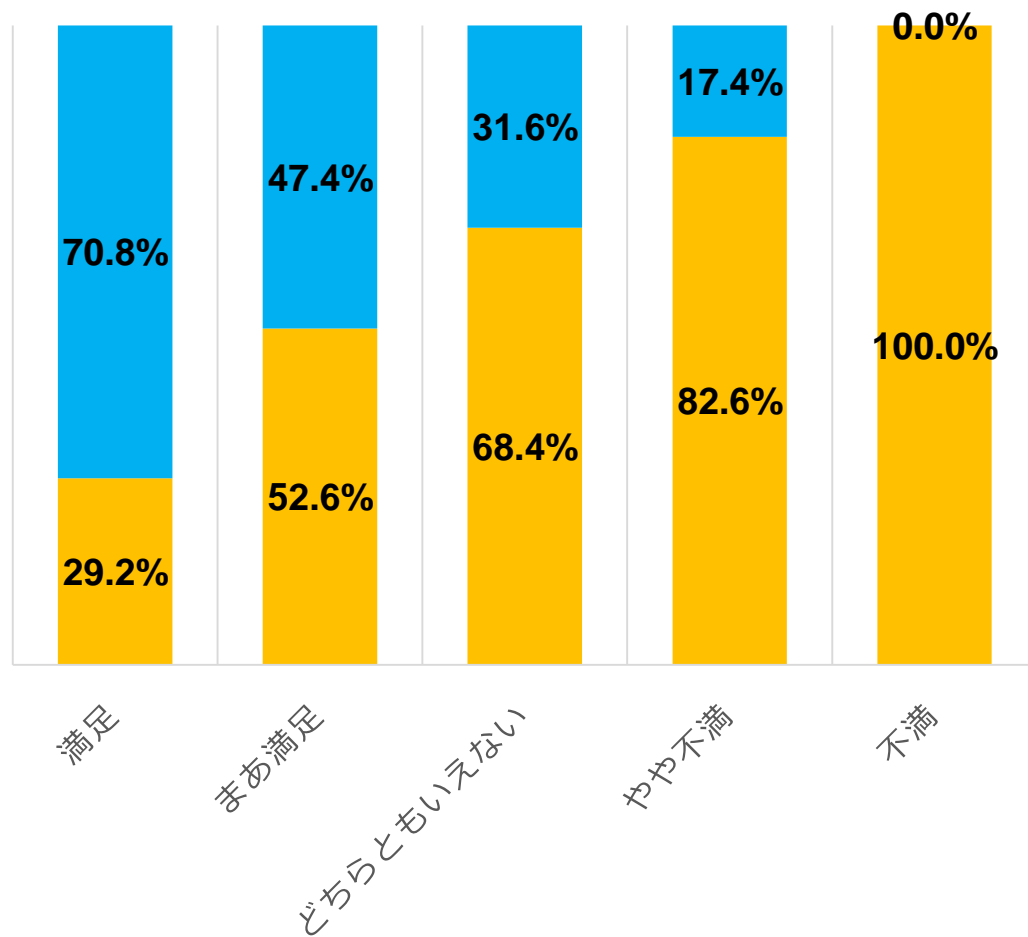


介護保険サービス利用者対象・満足度調査（在宅医療あり）

憂鬱感の有無×サービス満足度（本人）

n=565（624から無回答・無効59を除く）

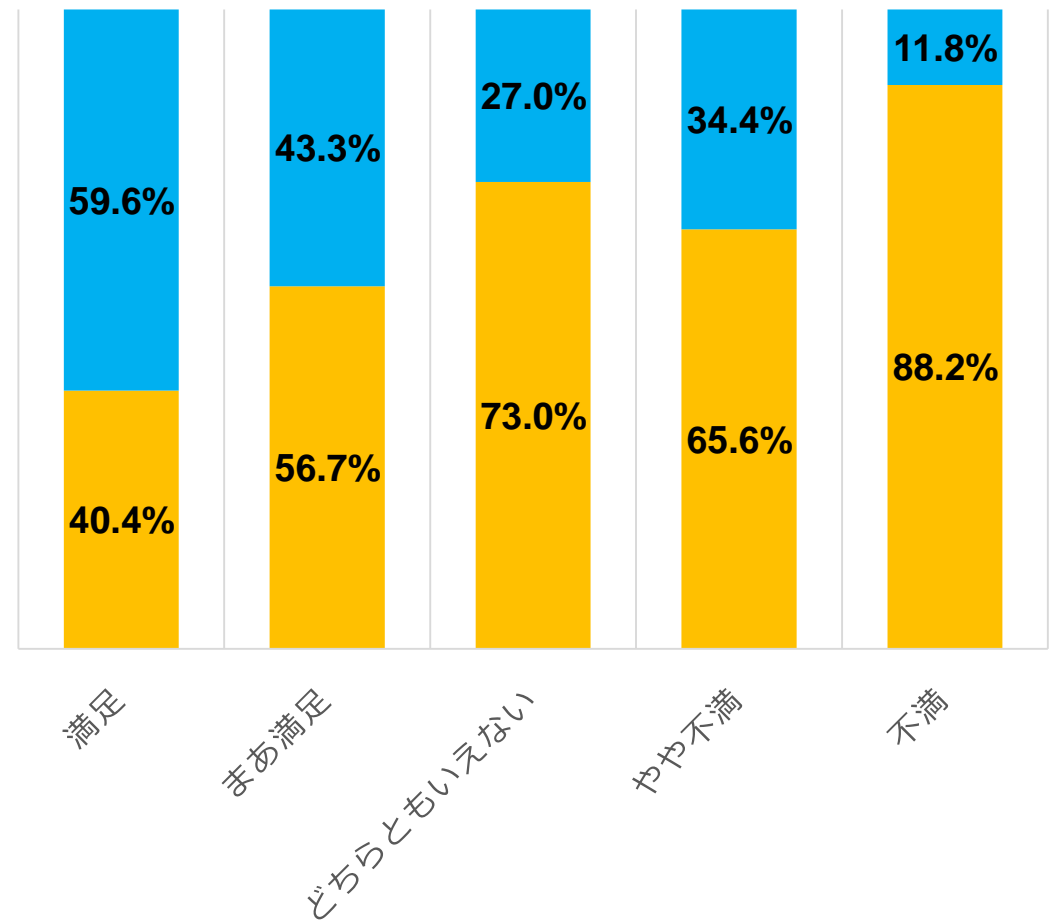
■ 憂鬱感あり ■ 憂鬱感なし



憂鬱感の有無×サービス満足度（家族）

n=817（876から無回答・無効59を除く）

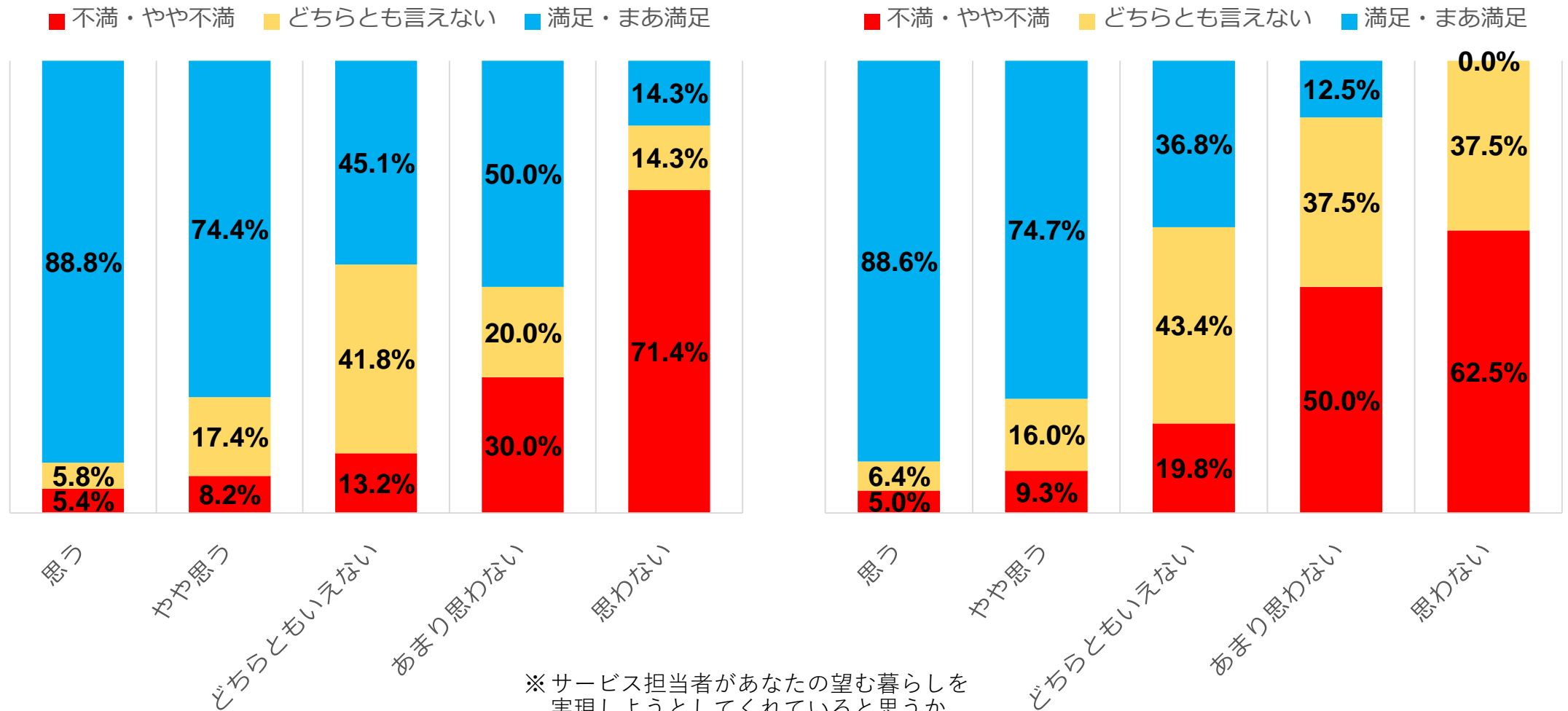
■ 憂鬱感あり ■ 憂鬱感なし



介護保険サービス利用者対象・満足度調査（在宅医療あり）

サービス満足度×望む暮らしの実現度※
（本人） n=555（624から無回答・無効69を除く）

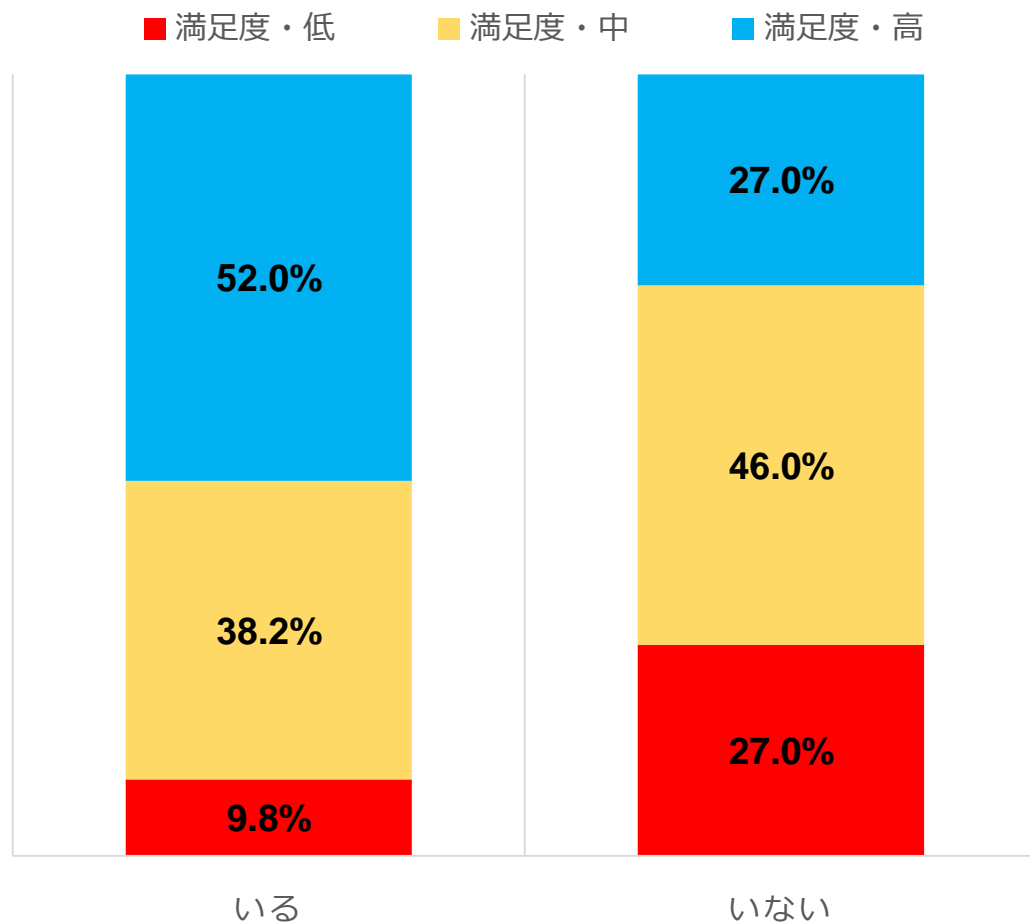
サービス満足度×望む暮らしの実現度※
（家族） n=809（876から無回答・無効67を除く）



介護保険サービス利用者対象・満足度調査（在宅医療あり）

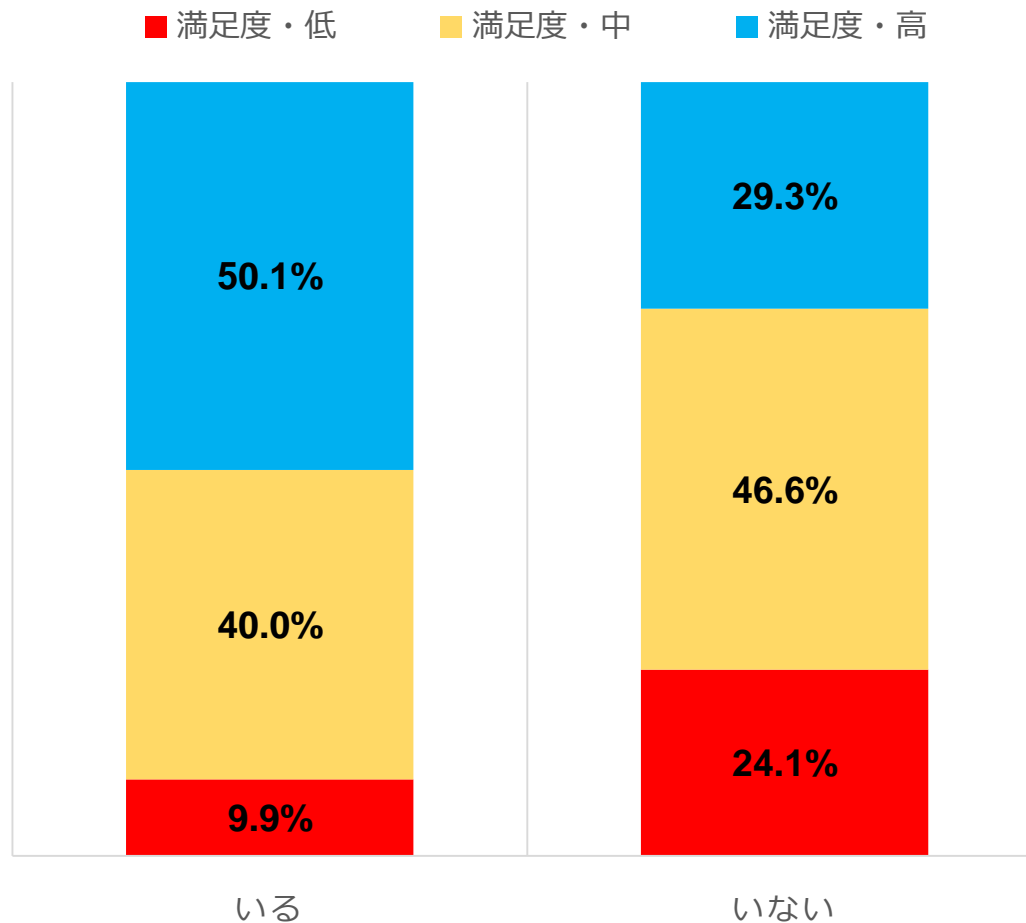
生活満足度×相談相手の有無（本人）

n=592（624から無回答・無効32を除く）



生活満足度×相談相手の有無（家族）

n=840（876から無回答・無効36を除く）



※ 満足度・低=0~3点, 中=4~6点, 高=7~10点

今後の予定

各職能団体における取り組みの整理（12月～2月）

- 令和3年度第3回に整理した「取り組みの方向性」を再確認するとともに、今回設定した4場面ごとのポイントを踏まえ、各職能団体ごとにテーマの実現に向けた取り組みを整理
 - 各職能団体ごとにヒアリングを実施します。（12月頃。別途調整）
 - ヒアリングまでに、取り組み内容の検討をお願いします。
 - 事務局で取り組み（ヒアリング結果）の取りまとめを行います。

令和5年度第3回協議会（3月）

- テーマの実現に向けた、各職能団体における取り組みを報告・共有

参考 | ヒアリングシート（案） ※イメージ

「本人と家族の意向に沿った多職種連携の推進」の実現に向けた取り組みの方向性

職能団体としての方向性 (4場面共通)		
4場面ごとの具体的な 取り組み	入退院支援	
	日常の療養支援	
	急変時の対応	
	看取り	